OLDLINE

HIROSHI MIMURA

「ひとと違う、カッコイイ車を作りたい」という思いが嵩じてカスタムペイントの世界に踏み込んだ。米国車(アメ車)のローライダー系カスタムなどで定評がある。ボンネットフードへのストライプに挑戦した。

三村弘氏　OLDLINE（水戸市）

- 生年月日：1975年6月9日
- 血液型：A型
- 愛車：レストア中のギャラックと国産ファミリーカー
- 趣味：車
- カスタムペイントを始めたきっかけ：自分の車をカッコヨクしたいという思いから。
- カスタムペイント歴・得意分野：15年・ストライプ系のカスタム
- カスタムペイントの魅力：自分の個性をアピールできる。
- 読者にひとこと：人と違うことをして人生が変わったと感じて下さい。

ストライプ

1. パネル表面はシルバーフレークを入れた塗料であらかじめ塗装。ラインテープを貼っていく

Point

ラインテープは幅 3mm、米国 3M 製を使用した。パネル中心部にラインテープをまっすぐ貼り付け、ノギスを利用してパネル中心からみて、テープの貼った場所が対称になるようにする。

Point

浮きだたせたい個所から先に塗装する

Point

マスキングする面積に応じて材料を使い分けるが、曲がった部分のマスキングでは、右手をゆっくり動かして、きれいな曲線になるようにする。塗装時にバタつかないよう余分なペーパーはテープで止めておく。

2. キャンディーレッドをスプレーガンで吹き付ける。ガン距離は 25cm 程度をキープ

3. グラフィックの立体感を強調するため、周辺に余分に塗料を重ね塗り

4. 塗料が生乾き状態の時に、爪先でなぞり丹念に細かい波形の模様を付けていく

Point

模様付けでは、指先の力加減にメリハリを付けると立体感が出せる。

5. 反対側も同様にキャンディーレッドを吹き付け、塗料が生乾きの時に指先で模様を付ける

6. キャンディーレッドをスプレーした個所だけがくっきり浮かび上がる

NEXT PAGE

TM AUTO SERVICE

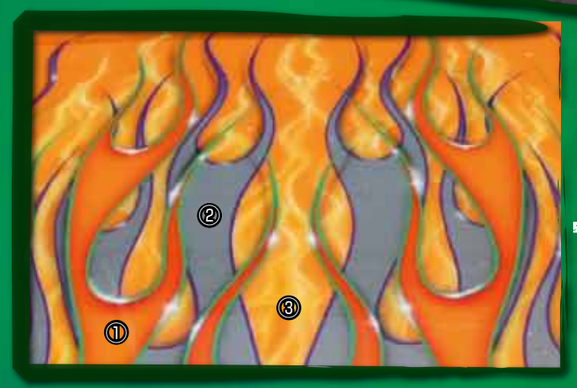
TAKESHI ICHIBA

1998 年に米国 SEMA ショーで見たカスタムペイントに感銘を受け、帰国後は仕事をカスタムペイント一本に絞り、これまでに数々の有名車を手掛けてきた。最近では、JCPA（Japan Custom Paint Association）の発足に大きく貢献し、中心的存在として活躍しおり、若手の育成も含め、カスタムペイントの普及に尽力している。

市場嵩士氏　TM AUTO SERVICE（大阪府高槻市）

- 生年月日：1972 年 8 月 31 日
- 血液型：A 型
- 愛車：ダッジラムトラック
- 趣味：車
- カスタムペイントを始めたきっかけ：1990 年代後半のアストロブームもあり、US カルチャーに影響を受けて、見よう見まねで始めたのがきっかけ。
- カスタムペイント歴・得意分野：14 年・トラッキングペイント
- カスタムペイントの魅力：車に対する自分の思い描いたイメージを自由に表現することができるところ。
- 読者へひとこと：失敗を恐れず、何度も挑戦してほしい。そのうちに自分でしか描けない表現や個性が見つかるはず。

トリプルフレイムス



1. トリプルフレイムスは文字通り、3 つの炎をグラフィックするペイントである。工程を追っていくにあたり、下記の通り番号付けする
フレイムス①＝一番手前に見えるオレンジ色のフレイムス
フレイムス②＝真ん中に見えるシルバーのフレイムス
フレイムス③＝一番奥に見えるリアルフレイムス

2. センターラインを決め、ラインテープを使い、リアルな炎をイメージしながら、フリーハンドでフレイムス①をかたどる

3. 重なり合ったラインテープの先端は、カッターで先を尖らせるように切り取る

4. フレイムス②を、フリーハンドでラインテープでかたどる。このとき、色違いのテープを使用すると見分けがつきやすい

5. 転写用シートの端をセンターで合わせ、テープで固定し、覆い被せる。その際、フレイムスを区別するため、先端に印を入れておく

6. ラインに沿って鉛筆でなぞり、転写していく

NEXT PAGE

飴色塗装店

SATORU HATANO

1970 年代のジェットヘルメットに魅了され、キャンディーペイントに興味を持つ。FRP 立体造形会社勤務を経て、2006 年に絵楽塗装店を設立。2009 年に飴色塗装店に屋号変更。カスタムペイントの中でも特にキャンディーペイントにこだわりを持ち、バイクオールペン、ヘルメットの塗装などを手がけている。

波多野聡氏　飴色塗装店（奈良県生駒市）

- 生年月日：1975 年 7 月 28 日
- 血液型：O 型
- 愛車（バイク）：ハーレーダビッドソン FLT1980
- 趣味：子と遊ぶこと、バイクカスタム
- カスタムペイントをはじめたきっかけ：学生時代に自分のバイクを缶スプレーペイントしたのがきっかけで、友人からバイクのペイントを依頼されるようになり、この仕事を選びました。
- カスタムペイント歴・得意分野：13 年・キャンディーペイント、マスキングワーク
- カスタムペイントの魅力：特にキャンディーフレークは光の加減、天候・昼間や夜間などの時間帯で色の表情が変わるところ。鏡面処理をすることにより景色もペイントの一部になります。山へ海へツーリングに行く先々で表情の変化を楽しんでもらえると思います。
- 読者へひとこと：どんなカスタムよりイメージが変わり、世界で唯一のバイクになるところ。あなたのためだけのバイクを手に入れて下さい。

オリジナルキャラクター（天狗）

1. ヘルメットに直接ラインテープを貼り付けていく。まずは、モチーフの中心となる天狗の鼻から

2. ラインテープの引き始めは、一番上にくるであろう図柄からで、ペイントは一番下になる部分から。きっちりと左右対称にならなくても良い。むしろ、シビアになりすぎないことが大切。こういったグラフィックには失敗がない。自分がいいと思えばいいものになる。失敗を恐れず、自信を持って作業したい

Point ラインテープの貼り付け方

今回のデザインのように、曲線の多いものはラインテープはゆっくりと徐々に曲げていくことが大切。一気に曲げようとすると折れて、すき間ができるので注意する。

Point

急な曲線は、ラインテープが浮いてしまうことがある。この場合、ライターなどを使ってカチッと一瞬だけ炙り、押さえて形を癖づける。浮いてこなくなるまで、炙って押さえてを 3 回ほど繰り返す。

3. 下書きをする場合、使い古してカスカスになった水性ペンがおすすめ。後から水で流しやすい

4. ラインテープの幅を調整しながら全体の雰囲気を見る。ラインに太い、細いの強弱をつけることで、単調になりがちなデザインに変化をつける

5. ラインの強弱で印象が変わる

6. 全体的にラインテープをカット

7. 図柄の外枠に赤いラインを入れるため、マスキング。エアブラシなので、完全にマスキングしなくても良い

NEXT PAGE

BODY SHOP KIKUTA

OSAMU KIKUTA

父が板金塗装業を営んでいたため、子どもの頃から塗装が身近だったという菊田氏。見た人を魅了する車、ということを意識し、これまで製作した車両も「通りがかる人の誰もが振り返るほどのカスタムペイントを施している」という。そのことば通り、カスタム関連雑誌にも多数掲載。また、ペイントだけにとどまらずボデーの加工も含めたトータルでのカスタムも手がけている。

菊田修氏　BODY SHOP KIKUTA（奈良県宇陀市）

- 生年月日：1973年7月8日
- 血液型：A型
- 愛車：リンカーンマークV、キャデラックリムジンetc
- 趣味：愛車のカスタム
- カスタムペイントをはじめたきっかけ：バイクやヘルメット、自動車の全塗装を自己流でやっていた 20 歳の時、ローライダーカーショーを見たこと。ショーカーにペイントされた究極の色を見て、同じような塗装をするため練習。誰かに教わるのではなく、自分自身で研究して、完成させることが楽しみでした。
- カスタムペイント歴・得意分野：21 年・ラインを生かしたグラフィックペイント、模様塗装、リーフ、ピンストライピング、キャンディーペイント（塗装全般！）
- カスタムペイントの魅力：自分の思ったように、自由に表現できること。完成した時の達成感と、それを見た人たちがかつての自分のように感動してくれること。普通の車に魂を吹き込んで、見る者を魅了することができる。トータルのカスタム車両において、塗装は非常に重要であり、最大の魅力。
- 読者へひとこと：カスタムペイントは決して難しいものではないと思います。自分を表現するキャンバスとして、自動車に色をつけるような感覚で楽しんでほしい。本書では技術を披露する立場ですが、私は特別な存在ではなくただの 1 ペインター（職人）。皆さんもいつか、その立場になることを期待しています。

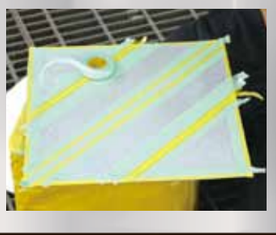
ソウルペイント

1. フレークとクリヤーを塗装し、サンディングしたプレートを用意。中心のライン取りをして、縁をマスキング

2. マスキングテープで全体的に位置取り

Point マスキングテープで作る均等なライン

ラインを強調したようなグラフィックは、様々な幅のマスキングテープを組み合わせて模様を作る。そうすることで、定規を使わずとも同じ幅を取ることができ、バランスの良いストライプができる。



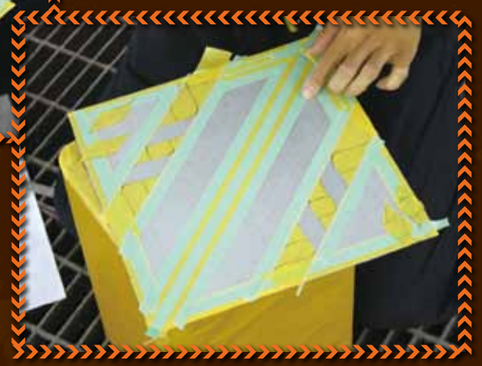
3. 面積の大きいところから模様を付けていく。まずはリボンペイント。ペイントする個所をマスキングし、厚紙をリボンのラインにあわせてカットする。この厚紙を使うことで、リボンが同じラインに保てる

4. マスキング面に下書きする

5. 等間隔になるようリボンの折り返し位置を決める

6. リボンの手前と奥側が分かるよう下書きし、もう一方も同様に

7. 手前にくるリボンの個所をはがす。はがしたテープは後ほど使うので、取っておく



Point 細部へのこだわりが仕上げを左右する

角を丸めることで少し高級感を出す。鋭角なままではなく、一手間かけて細部にこだわっている。

NEXT PAGE

世界で活躍するエアブラシアーティスト、SHIN（野田真一）氏。フリーハンドで写実的に女性から静物までを描ききるスキルと感性に注目が集まる。数ある作画バリエーションの中から、女性の全身像を描いてもらった。

AREA51

SHINICHI NODA

女性の全身像

野田真一（SHIN）氏　AREA51（愛知県一宮市）

- 生年月日：1965年11月4日
- 血液型：B型
- 趣味：動物（鷹、犬、鳩を飼育中）
- カスタムペイントを始めたきっかけ：ミュージシャンとして在米生活を送っていた時に体験したのがきっかけ。
- カスタムペイント歴・得意分野：23年・苦手なものはなし。
- カスタムペイントの魅力：手軽に作画でき、マジックな気分に浸れること。
- 読者へひとこと：できればスクールに通って勉強すれば楽しさが広がります。

使用したエアブラシと塗料

1. 下絵（写真左）は、鉛筆とペン、エアブラシで描いた。これをブラック塗装したパネルに、白の塗料とエアブラシで下書きする（同右）

ディテールの作画

2. 初期の段階では、その後の修正の可能性を考慮して、「それほど大事でない場所から描く」。赤い塗料で、眉毛、目の輪郭、口元、鼻、のど元の順に描いた

Point

エアブラシで描き間違えた時は、その全部を消さないこと。修正方法の目安を付けやすくするために、間違いがうっすら見える程度に塗料を塗る。

3. 縦方向の線などを描きにくい時は、パネルを横方向に置き換えると作業がしやすくなる

4. エアブラシで人物の輪郭をトレース。光のあたり具合をイメージしながら影を付ける下準備として

NEXT PAGE